

事務連絡
令和5年8月21日

各正会員
事務局責任者様

公益社団法人全国産業資源循環連合会
専務理事 室石 泰弘
(担当:戒能)

産業廃棄物処理業の景況動向調査報告書【2023年4-6月期】の送付について

当連合会の事業の運営につきましては、日頃から格別のご協力を賜りまして厚く御礼申し上げます。

さて、本調査の実施にあたり全産連発第69号(令和5年7月7日付け)にて貴協会会員企業にご協力をお願いしたところですが、今般、景況動向調査報告書【2023年4-6月期】がまとまりましたので、送付いたします。

報告書の概要版につきましては、連合会ホームページに掲載しておりますので、以下のURLをご参照ください。

【報告書概要版の掲載ページ URL】

<https://www.zensanpairen.or.jp/activities/report/>

次期(2023年7-9月期)につきましては、令和5年10月中旬頃に調査依頼を予定しておりますので、ご承知おきください。

産業廃棄物処理業景況動向調査結果について 〔2023年4-6月期〕

公益社団法人全国産業資源循環連合会

〔調査結果の概要〕

今期の調査は300社から回答があった。景況判断DIは▲18となり、前期調査から2ポイント悪化した。来期の見通しは▲17となり、1ポイント改善する見込みとなっている。

経営上の問題点については、「従業員の不足」、「修理、修繕費等の増加」の回答割合が高かった。

「その他」の記述回答では、6期続けて、燃料費の高騰を懸念する声が多く寄せられた。

以下、その他業況感DIの内訳

2023年1-3月期に対して、

- ・売上高DIは▲16で、8ポイント悪化
- ・処理量DIは▲15で、同水準
- ・営業利益DIは▲16で、4ポイント悪化
- ・資金繰りDIは▲3で、1ポイント悪化
- ・借入難易度DIは6で、3ポイント悪化
- ・設備投資DIは0で、4ポイント悪化
- ・従業員数DIは2で、同水準
- ・契約単価DIは、収集運搬が6で、2ポイント悪化
処分が8で、3ポイント改善

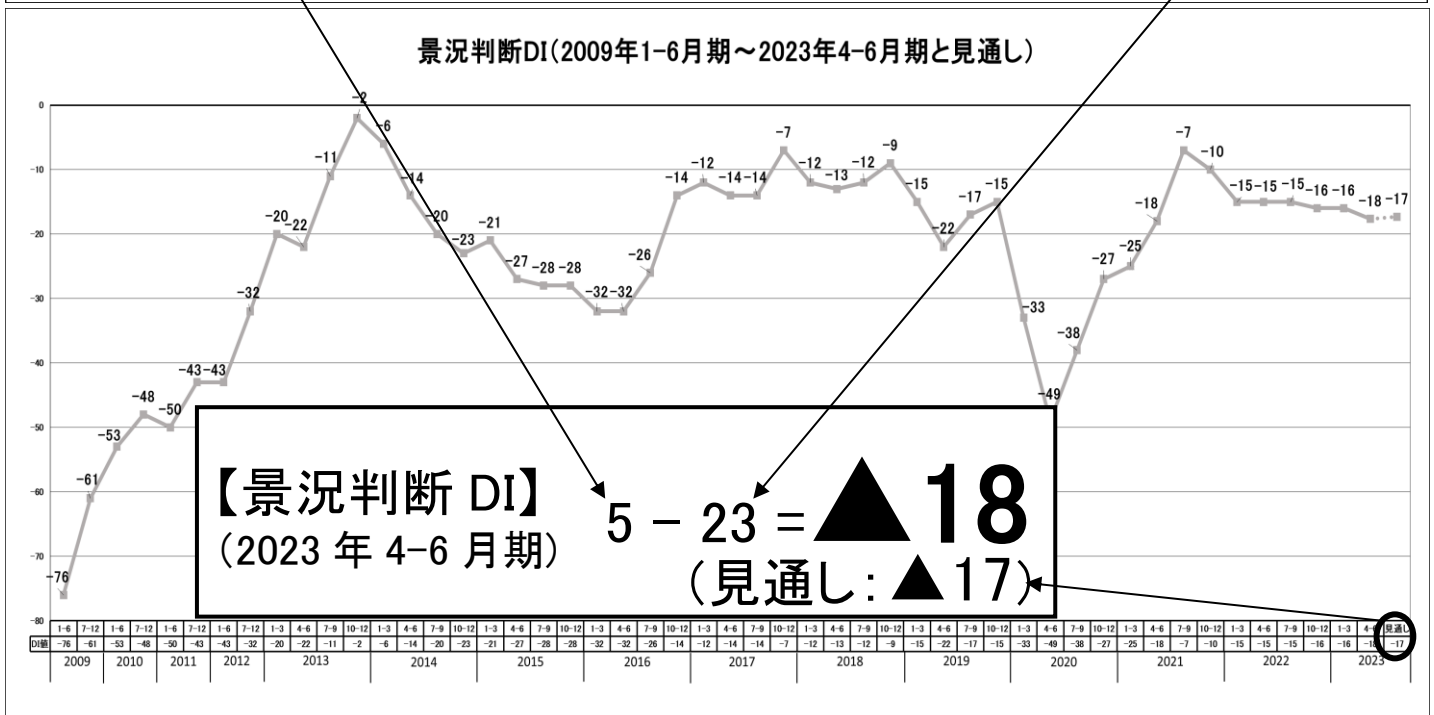
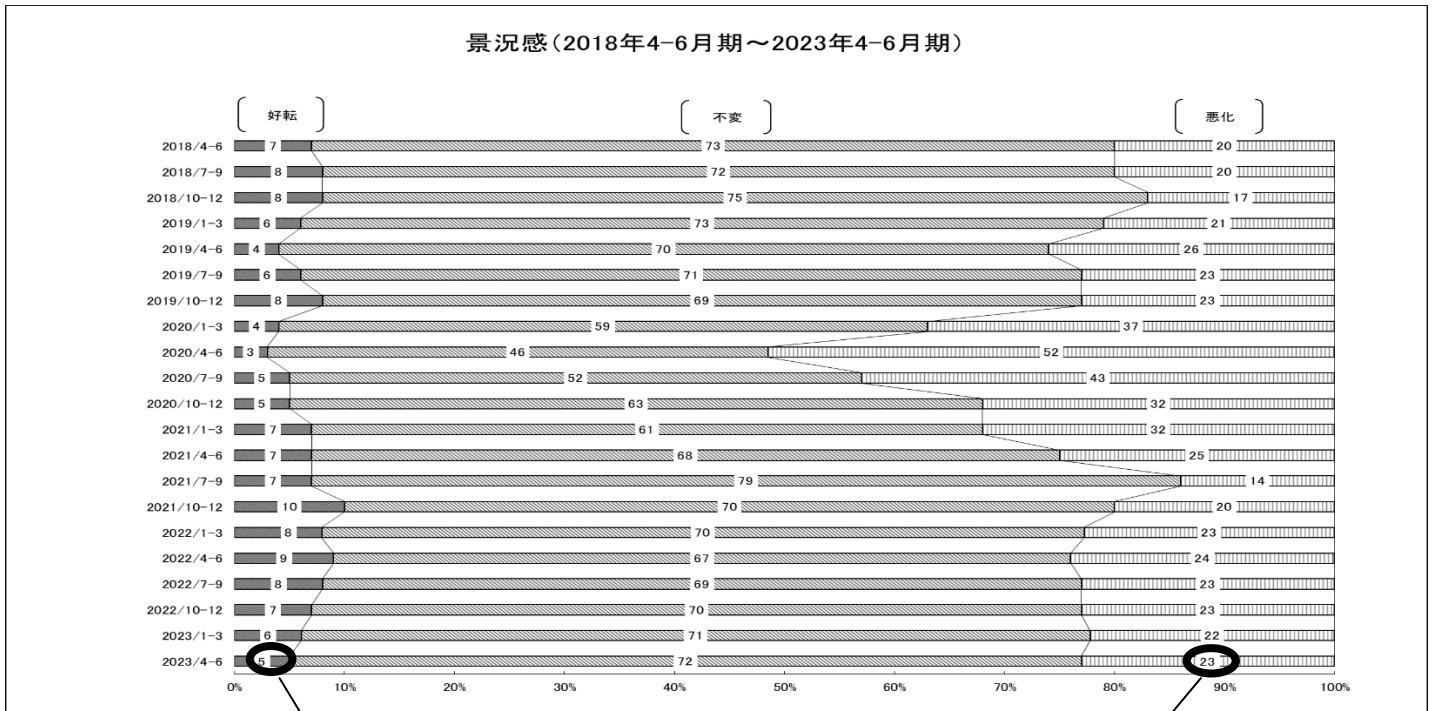
- 売上高の動向については、前年同期比で2.5%増となった。
- 処理量の動向については、前年同期比で2.1%減となった。
- 経常利益率については、前年同期比で3.7%増となった。

※DIとはディフュージョン・インデックス(Diffusion Index)の略で「好転」・「増加」したなどとする企業割合から「悪化」・「減少」したなどとする企業割合を差し引いた値である。

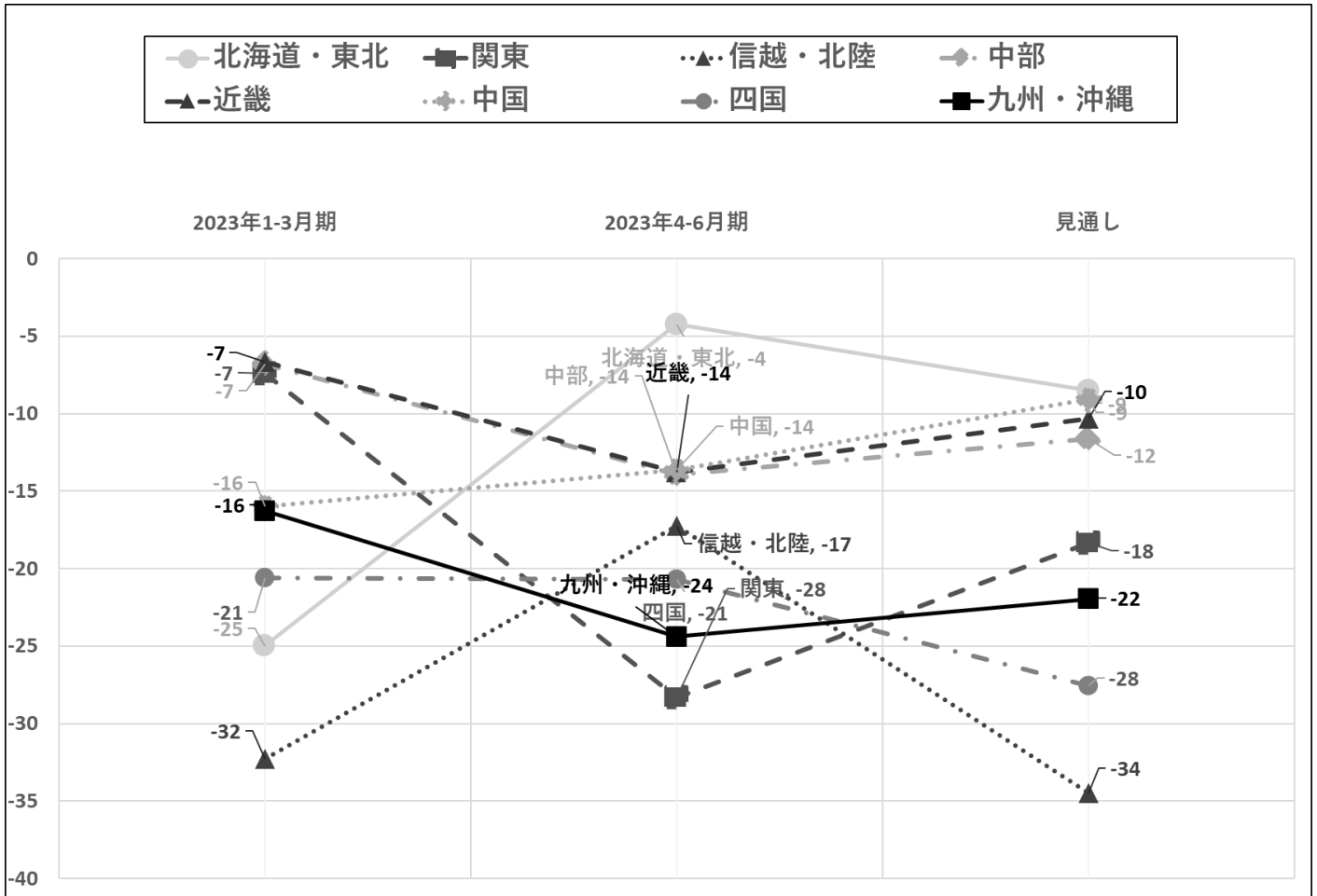
1. 景況感 DI(「好転」・「増加」-「悪化」・「減少」の企業割合)

(1) 景況判断 DI

- 景況判断 DI は▲18 となり、前期から 2 ポイント悪化した。
見通しは▲17 となり、1 ポイント改善する見込みとなっている。
- 地域別の景況判断 DI をみると、「北海道・東北」、「信越・北陸」、「中国」が改善した。(3 ページ参照)
- 地域別の景況判断 DI 見通しをみると、「関東」、「中部」、「近畿」、「中国」、「九州・沖縄」が改善する見込みとなっている。(3 ページ参照)



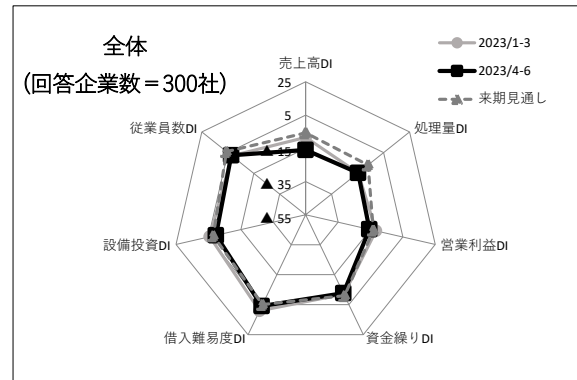
地域別景況判断 DI



	全体平均	北海道・東北	関東	信越・北陸	中部	近畿	中国	四国	九州・沖縄
2023年1-3月期	-16	-25	-7	-32	-7	-7	-16	-21	-16
2023年4-6月期	-17	-4	-28	-17	-14	-14	-14	-21	-24
見通し	-18	-9	-18	-34	-12	-10	-9	-28	-22

(2)売上高、処理量、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数 DI

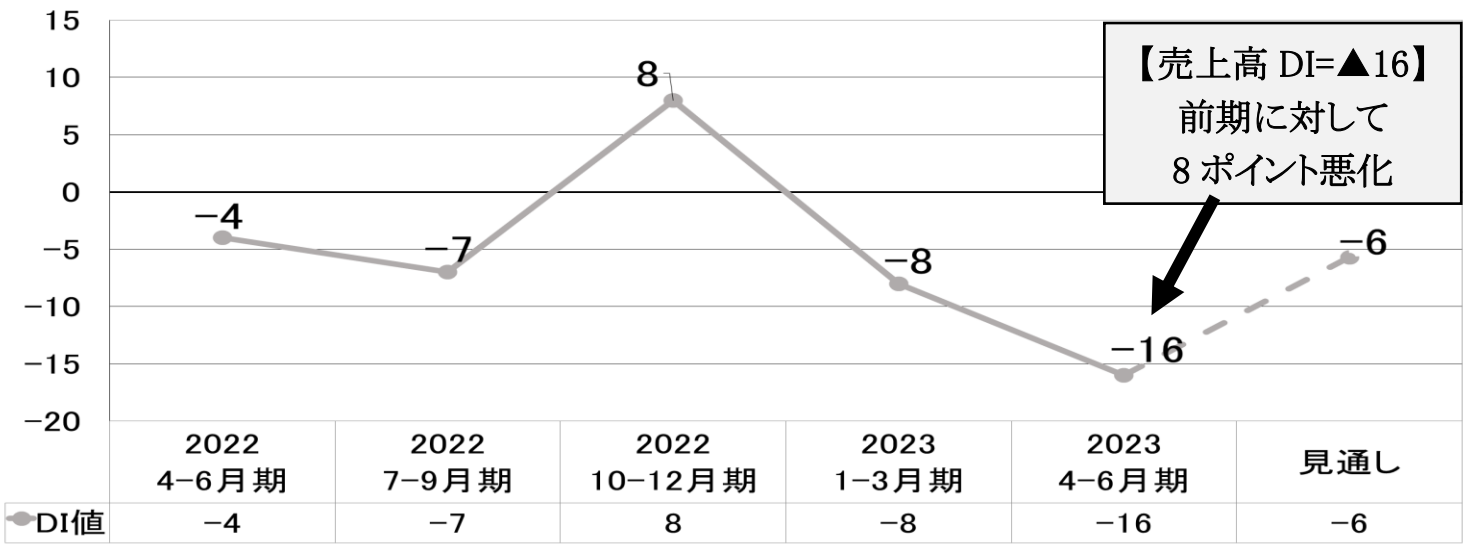
- 前期から改善した DI はなかった。
- 見通しは、借入難易度 DI 以外で改善する見込みとなっている。



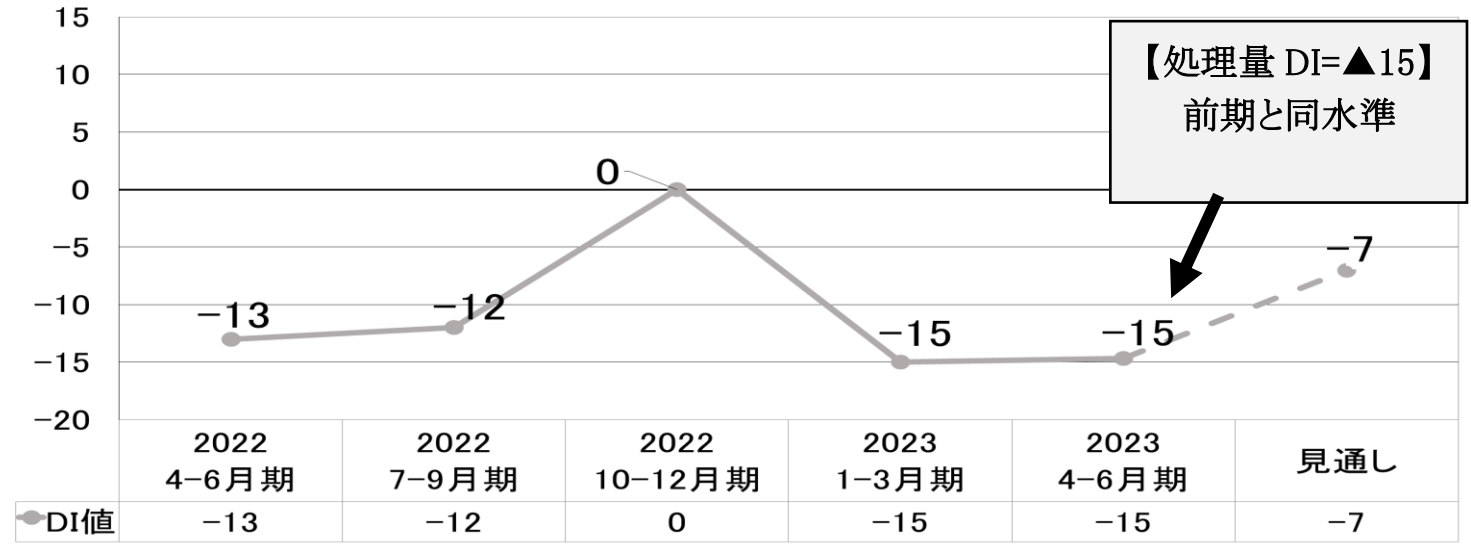
以下詳細(5~7ページ参照)

- ・売上高 DI は▲16 となり、前期と比べて 8 ポイント悪化した。
見通しは▲6 となり、10 ポイント改善する見込みとなっている。
- ・処理量 DI は▲15 となり、前期と同水準となった。
見通しは▲7 となり、8 ポイント改善する見込みとなっている。
- ・営業利益 DI は▲16 となり、前期と比べて 4 ポイント悪化した。
見通しは▲13 となり、3 ポイント改善する見込みとなっている。
- ・資金繰り DI は▲3 となり、前期と比べて 1 ポイント悪化した。
見通しは▲1 となり、2 ポイント改善する見込みとなっている。
- ・借入難易度 DI は 6 となり、前期と比べて 3 ポイント悪化した。
見通しは 5 となり、1 ポイント悪化する見込みとなっている。
- ・設備投資 DI は 0 となり、前期と比べて 4 ポイント悪化した。
見通しは 2 となり、2 ポイント改善する見込みとなっている。
- ・従業員数 DI は 2 となり、前期と同水準となった。
見通しは 6 となり、4 ポイント改善する見込みとなっている。

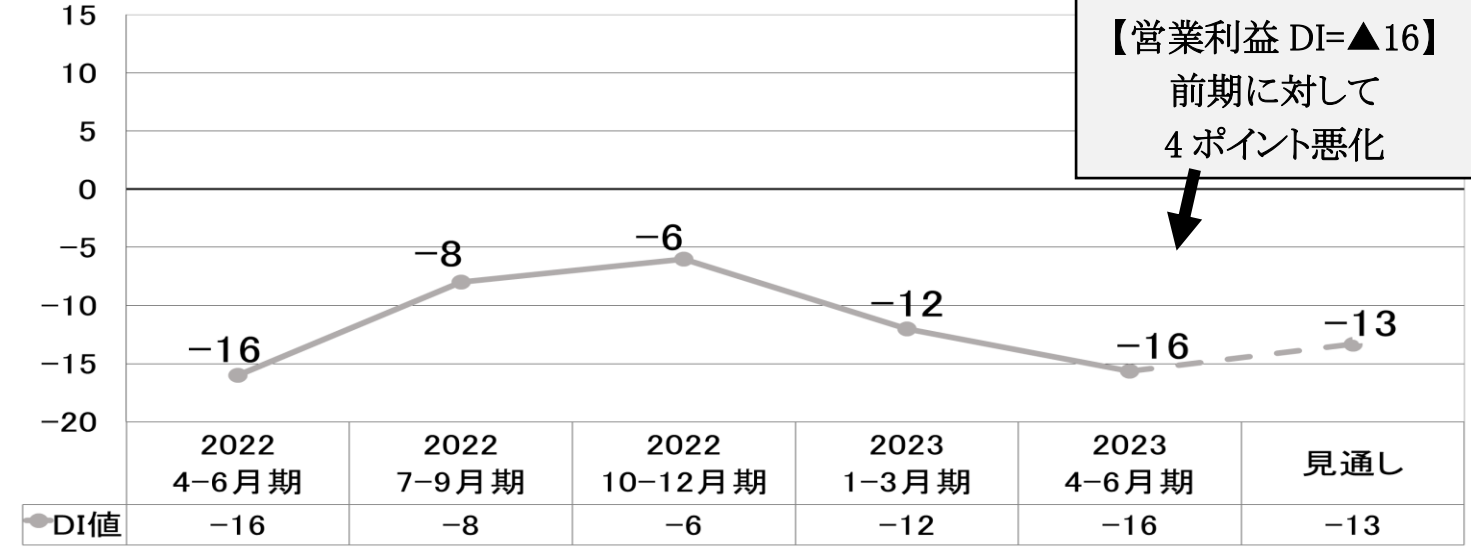
売上高DI (2022年4-6月期～2023年4-6月期と見通し)



処理量DI (2022年4-6月期～2023年4-6月期と見通し)

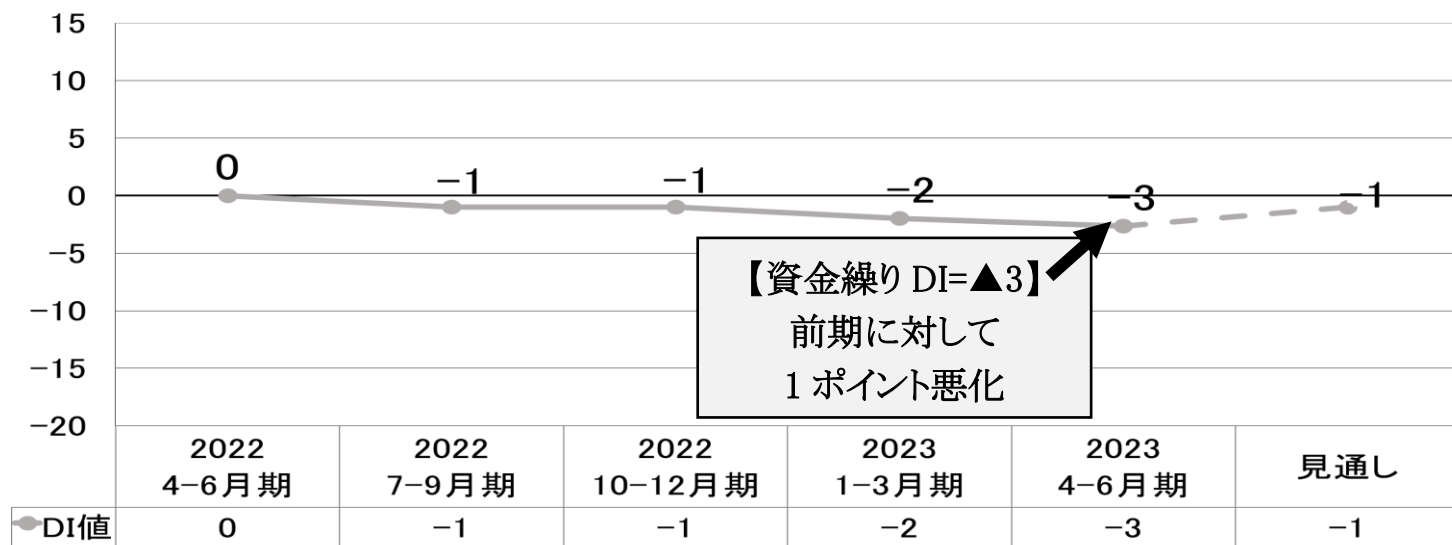


営業利益DI (2022年4-6月期～2023年4-6月期と見通し)



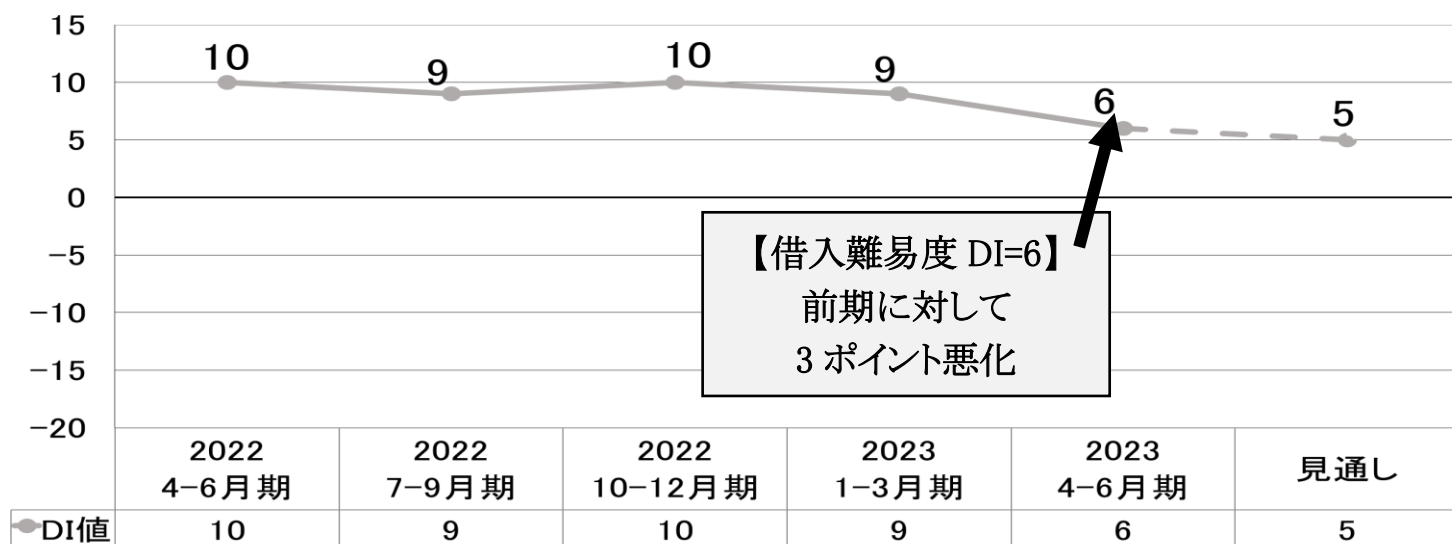
資金繰りDI

(2022年4-6月期～2023年4-6月期と見通し)



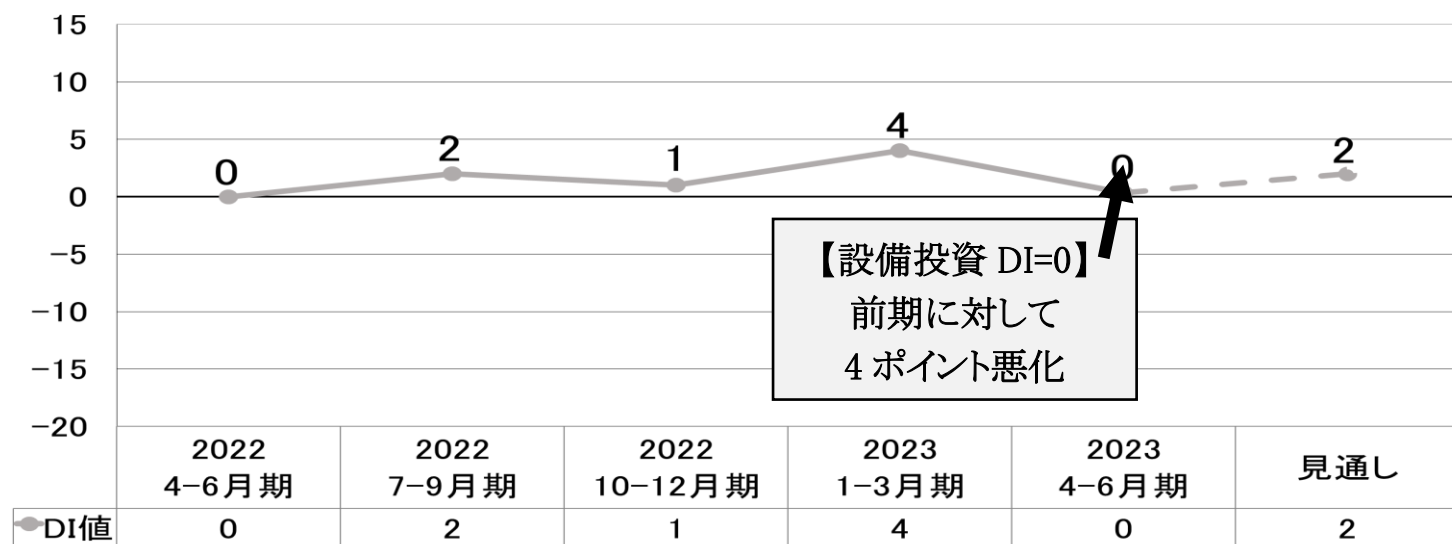
借入難易度DI

(2022年4-6月期～2023年4-6月期と見通し)

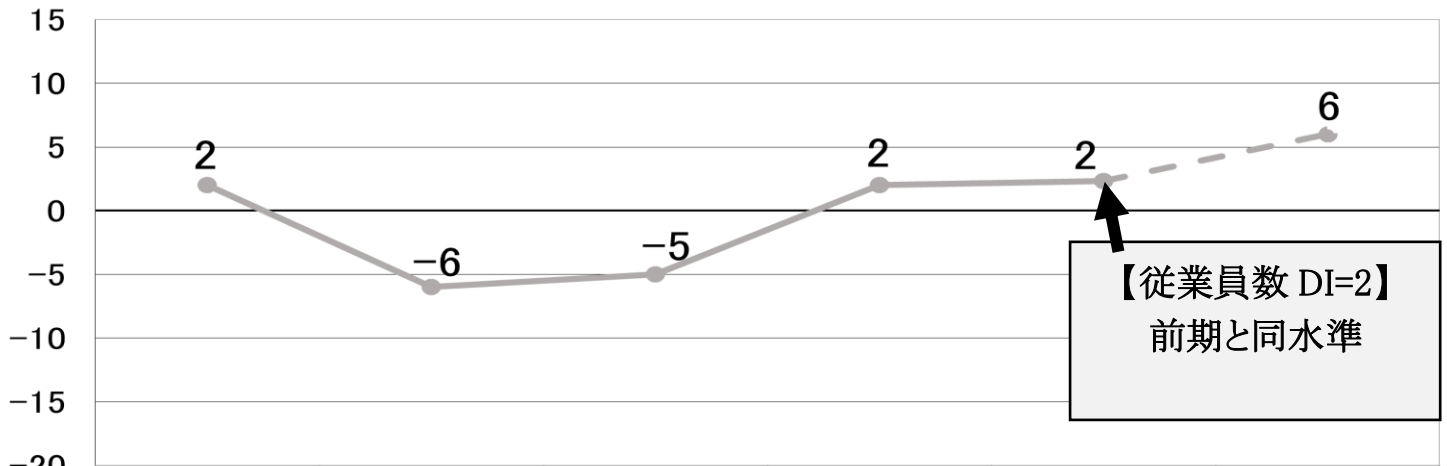


設備投資DI

(2022年4-6月期～2023年4-6月期と見通し)

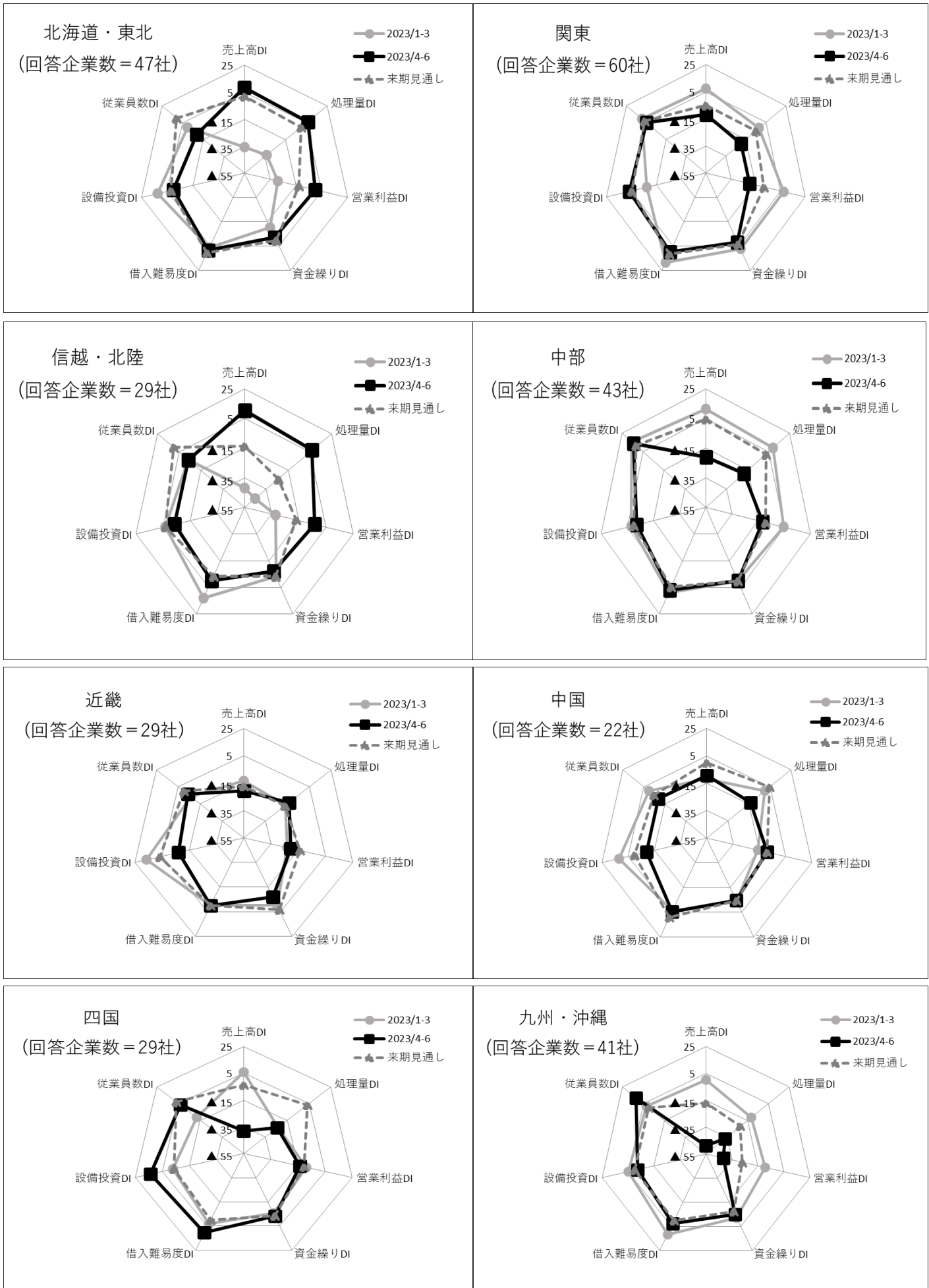


従業員数DI (2022年4-6月期～2023年4-6月期と見通し)



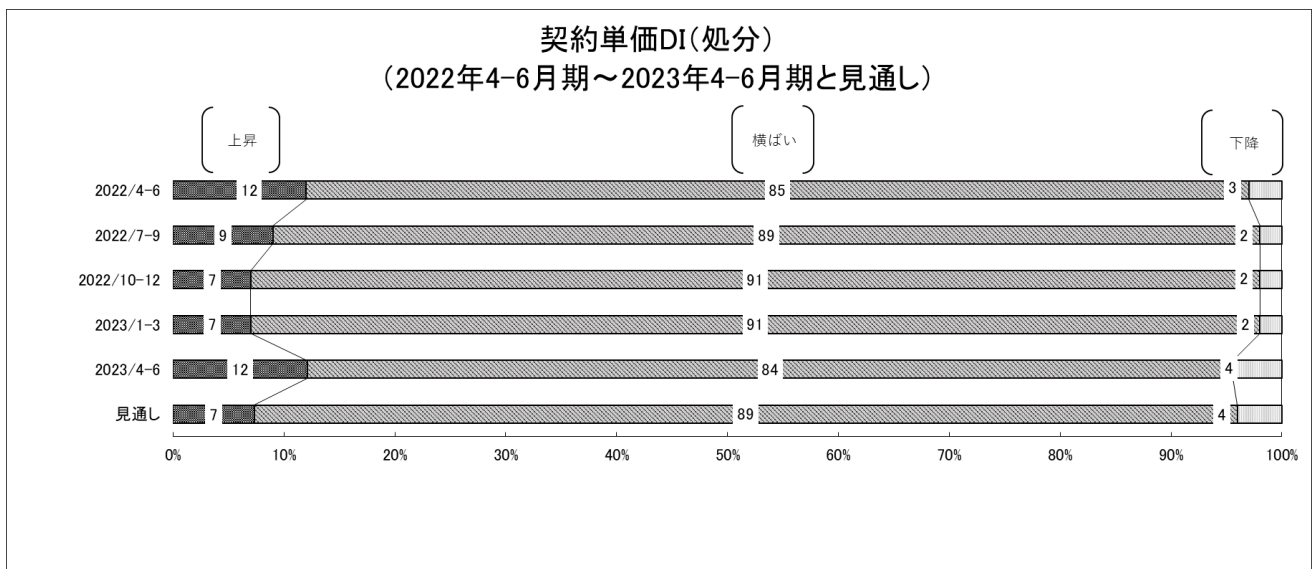
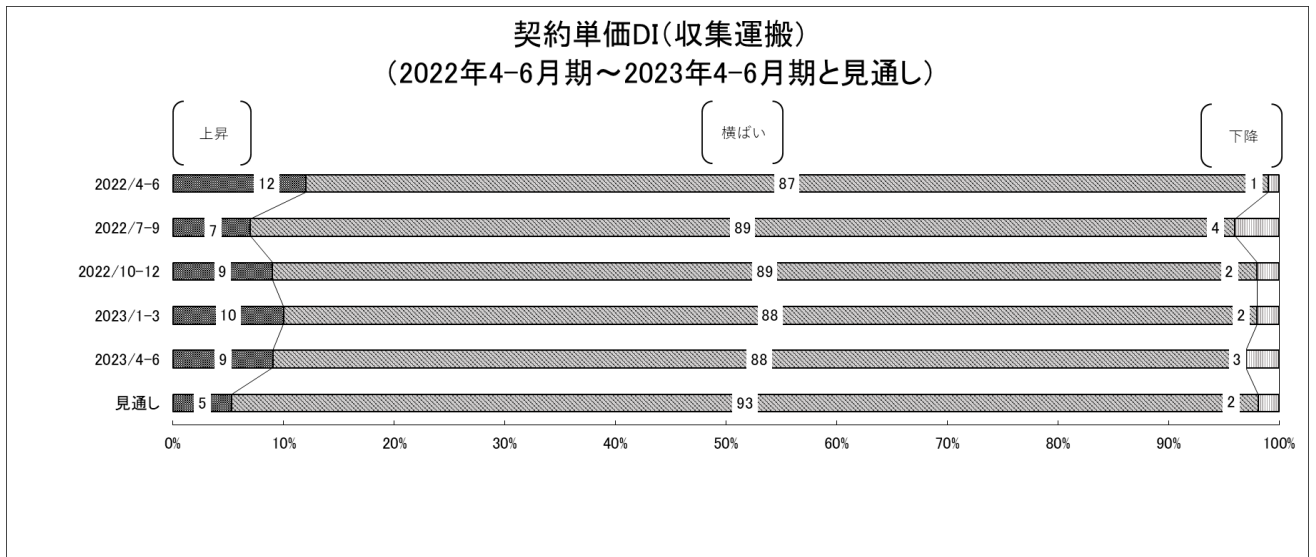
	2022 4-6月期	2022 7-9月期	2022 10-12月期	2023 1-3月期	2023 4-6月期	見通し
●DI値	2	-6	-5	2	2	6

【売上高、処理量、営業利益、資金繰り、借入難易度、設備投資、従業員数 DI の地域別レーダーチャート】



(3) 契約単価 DI

- 収集運搬の契約単価 DI は 6 となり、前期と比べて 2 ポイント悪化した。
見通しは 3 となり、3 ポイント悪化する見込みとなっている。
- 処分の契約単価 DI は 8 となり、前期と比べて 3 ポイント改善した。
見通しは 3 となり、5 ポイント悪化する見込みとなっている。



2. 売上高の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、2.5%増となった。

有効回答数:155社

単位:千円

前年売上高	2022年4月	2022年5月	2022年6月	平均
	8,883,205	8,233,920	9,326,031	8,814,385
今年売上高	2023年4月	2023年5月	2023年6月	平均
	8,745,539	8,446,654	9,918,170	9,036,788
前年比	▲1.5%	2.6%	6.3%	2.5%

3. 処理量の動向

○ 前年同期比(3ヶ月平均)では、2.1%減となった。

有効回答数:149社

単位:トン

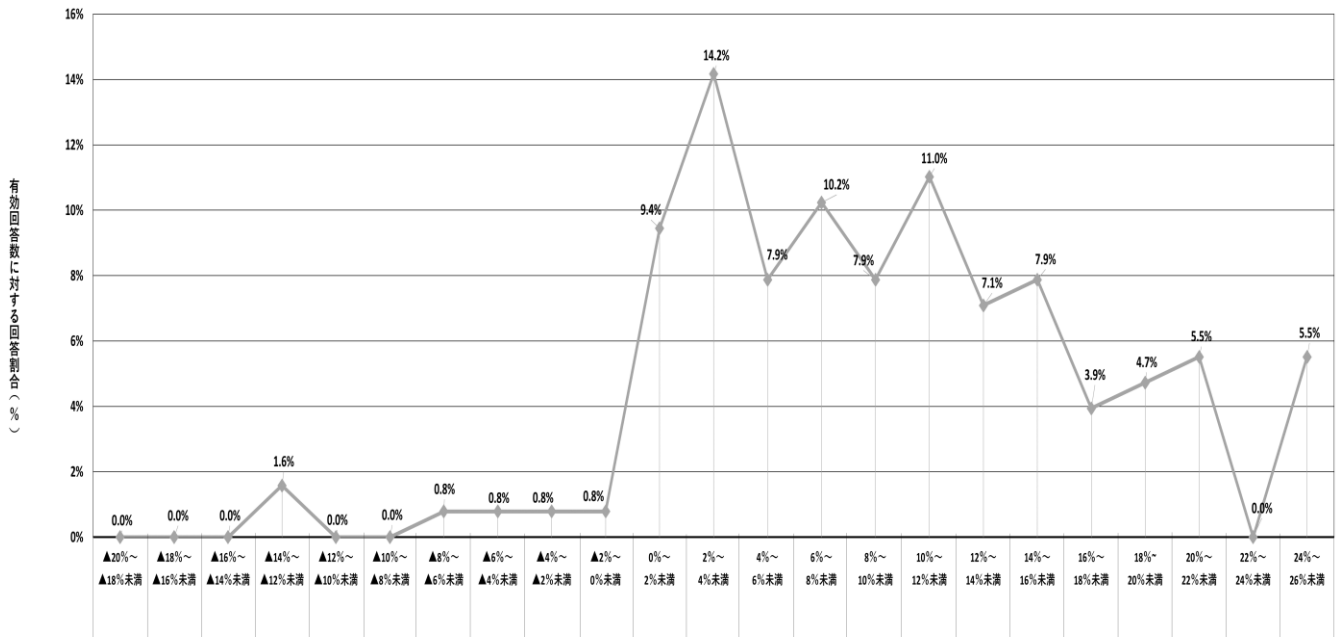
前年処理量	2022年4月	2022年5月	2022年6月	平均
	441,552	393,201	450,385	428,379
今年処理量	2023年4月	2023年5月	2023年6月	平均
	438,031	390,818	429,918	419,589
前年比	▲0.8%	▲0.6%	▲4.5%	▲2.1%

4. 経常利益率(経常利益の対売上高比率)

- 経常利益率の平均値は9.4%で前年同期(5.7%)より大幅に改善した。

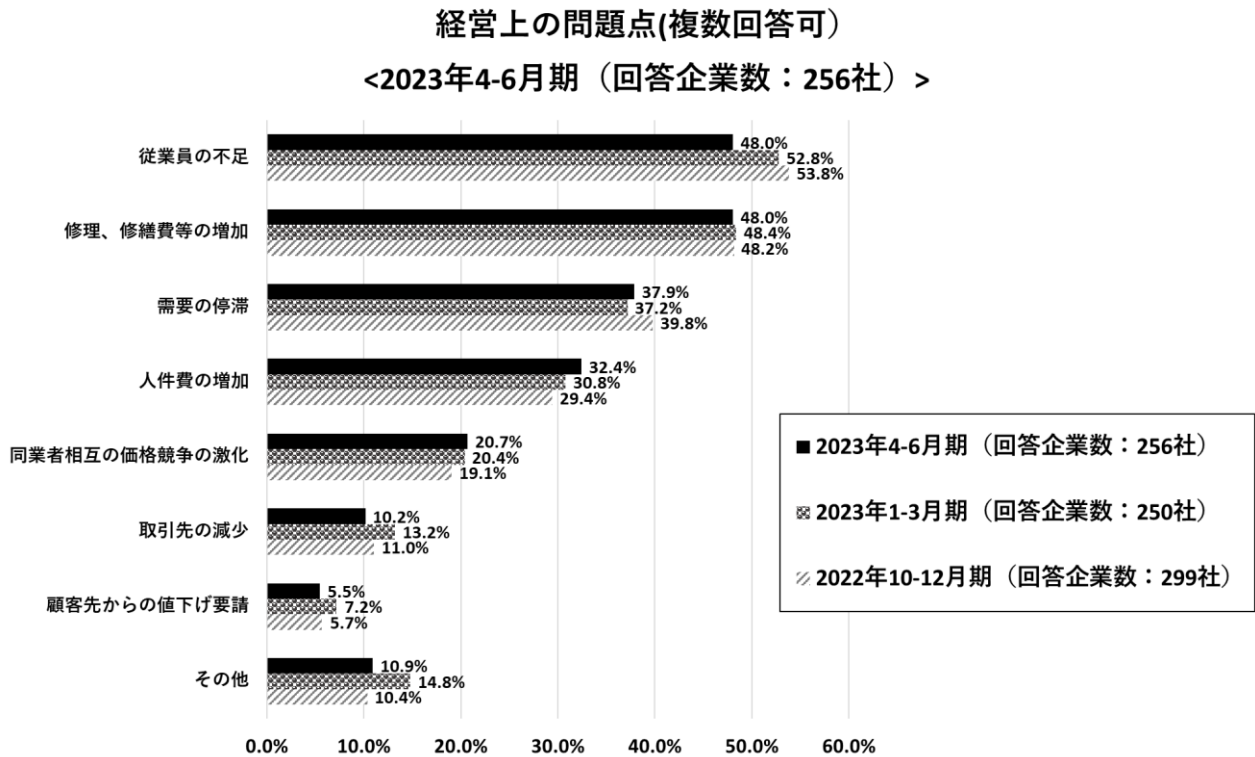
有効回答数:127社

経常利益率の分布(2023年4-6月期)



5. 経営上の問題点(複数回答可)

- 経営上の問題点として、「従業員の不足」、「修理、修繕費等の増加」の回答割合が高かった。
- 「その他」の記述回答では、6期続けて、燃料費の高騰を懸念する声が多く寄せられた。



【その他記述回答の代表的な意見】

- ・ 燃料費の高騰
- ・ 円安や物価上昇の影響
- ・ 最終処分場の受入制限及び処分費の値上げ
- ・ 設備投資、設備増強に係る費用の増加
- ・ 天候不順により解体工事が進まず
- ・ 運送業界の2024年問題への対応

〔調査実施要領〕

本調査は、産業廃棄物処理業の景気動向について把握するため、全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員を対象に、各社の業況の現状と今後の見通しに関する判断を調査し、集計したものである。

(1) 調査対象者

全国の協会会員企業、全国産業資源循環連合会理事及び部会運営委員会委員

(2) 調査期間

2023年7月7日～7月31日

(3) 調査方法

Webによるアンケート

(4) 回答数・回答率

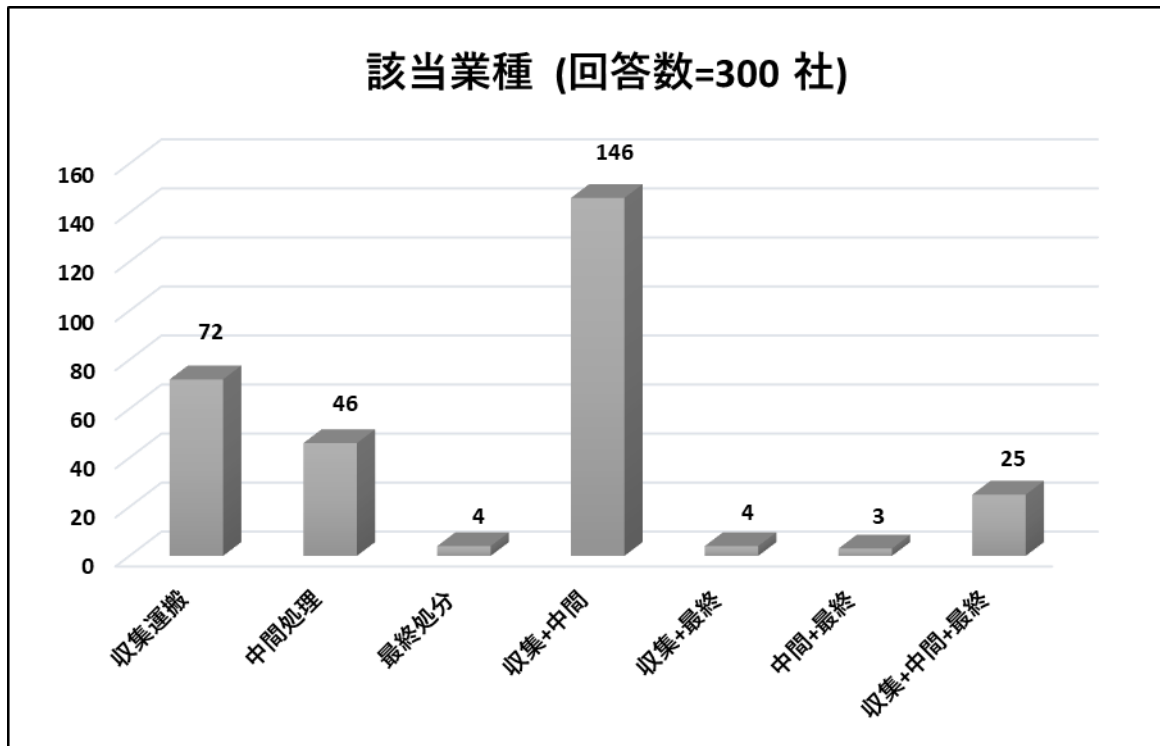
調査依頼企業数	1,251社
回答企業数	300社
回答率	24%

(5) サンプル構成

① 地域別構成

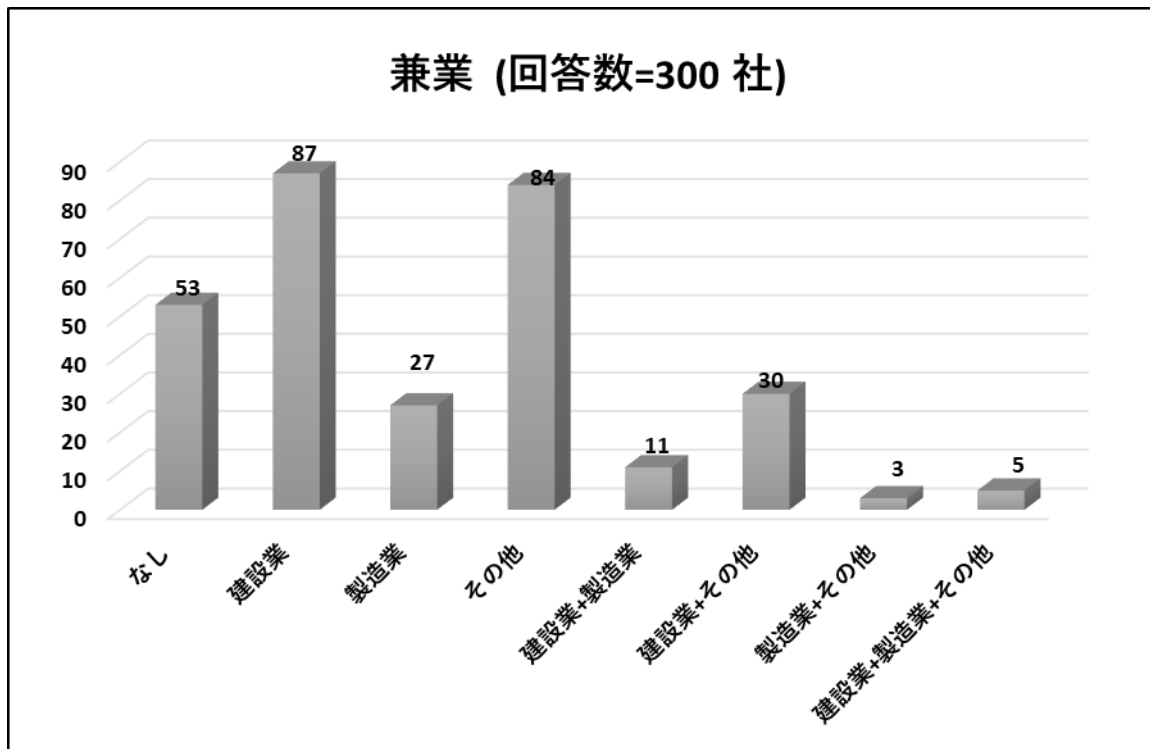
地域	企業数	構成比
北海道・東北	47	15.7%
関東	60	20.0%
信越・北陸	29	9.7%
中部	43	14.3%
近畿	29	9.7%
中国	22	7.3%
四国	29	9.7%
九州・沖縄	41	13.7%
合計	300	100.0%

② 業種別構成



該当業種	企業数	構成比
収集運搬	72	24.0%
中間処理	46	15.3%
最終処分	4	1.3%
収集+中間	146	48.7%
収集+最終	4	1.3%
中間+最終	3	1.0%
収集+中間+最終	25	8.3%
合計	300	100.0%

③ 兼業別構成



兼業	企業数	構成比
なし	53	17.7%
建設業	87	29.0%
製造業	27	9.0%
その他	84	28.0%
建設業+製造業	11	3.7%
建設業+その他	30	10.0%
製造業+その他	3	1.0%
建設業+製造業+その他	5	1.7%
合計	300	100.0%